

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1271600544		
法人名	医療法人社団 昭桜会		
事業所名	グループホーム サクラビア成田		
所在地	千葉県成田市寺台251-20		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/127/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/127/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	〒273-0048千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成26年2月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームサクラビア成田は、「歴史の町・国際都市」成田に開設し、成田山新勝寺・成田空港に近く、観光客が絶えない賑やかな町にあります。サクラビア成田は「もてなし・快適さ・楽しさ」を理念とし、利用者が安心して楽しく生活できるよう日々努めております。地域の方々とのふれあひも大切に、自治会にも参加しています。地域の夏祭りは皆楽しみでもあります。成田山へ出かけては、お茶を飲んだり、紅葉を楽しんだり、四季折々の楽しみがあります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

施設は「利用者が安心して楽しく生活できる」を目標として、様々なことを工夫して行っている。楽しみを増やすため、毎月ボランティアを受け入れており、フラダンスと一緒に踊り、合唱、民謡などを通じて交流の機会を設けている。また日常では、リビングでしり取りゲーム、反対言葉のレクリエーションを行ったり、お誕生会のケーキ作りなど、利用者が楽しんでいる様子が窺えた。外部の行事では、ちゃんこ料理をお相撲さんと食べたり、地域の催し物に参加してお菓子や豚汁をごちそうになっている。また、近くの公園で、四季折々の季節の変化を觀賞している。職員は、利用者が様々な交流をして気分転換をしながら楽しく施設の生活をするように、適切な対応を行っていることが見受けられた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	もてなし・快適さ・楽しさを理念とし、これを職員は念頭に置き声を掛け合って取り組んでいる。	「安心して楽しく生活できるように」を目標にして、ボランティアによる催し物や行事を工夫して行っている。職員は、理念の「もてなし・快適さ・楽しさ」を、利用者と接する基本として支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から自治会に参加し、地域の方との交流があり、気軽に声を掛け合ったり、相談がある。	自治会からは定期的な案内により、行事などの情報を得ている。また、自治会による地域の河川クリーン活動に参加して清掃を行ったり、空港通り活性化協議会に参加するなど、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に参加し、普段から交流を深める中でホームの状況を、地域の方々にご理解いただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で上がった地域の方やご家族の意見を、ホームの運営に生かしている。	今年度は計画は6回を予定したが、一度も開催していない。家族、地域の方、行政に協力をお願いして、施設の支援内容などを話し合う機会を設けることが重要である。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催して、施設の運営状況を話し合う重要な機会である。利用者の状況変化などがあり大変と思うが、今後は計画的に開催するように期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	成田市グループホーム連絡会を通じ、市の担当者との連絡を取り合い、改善点等を話し合っている。	グループホーム連絡会に毎月参加している。市内の施設の利用状況、行政からの連絡、施設からの離所者を防ぐ方法などについて話し合っている。研修は「管理者としてのリーダーシップ」などに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修に参加し、日頃から職員間で取り組んでいる。	オムツ利用の方が、手を入れて汚れるため家族の了解を得て介護衣を使用している。朝方は特に見守りに留意しながら、拘束にならないように誘導を巧みにして支援を行っている。	拘束に関する点は会議録に残しているが、今後止むを得ず拘束をする場合は、家族への確認と、支援経過を記録して保存することが必要と思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待廃止研修に参加し、日頃から取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ権利擁護等の相談等はないが、制度の理解に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族に説明をし、疑問点に関してはその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じ、ご家族の意見、要望を把握し、運営に取り入れるように努めている。	家族には、お花見、運動会、クリスマス会などの様子を、「サクラピア便り」で知らせている。また、ボランティアのフラダンスなど毎月一緒に楽しむ機会を設けている。家族が訪問の際には職員と状況を話し合っている。	家族の中には、施設からの情報を理解していない方がいる。更に交流の機会を設けて、要望や意見を話し合い些細なことでも適切な対応をすることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員合同会議にて、職員との意見交換の場を、設けている。	職員は毎日の申し送り及び毎月の定期カンファレンスで、入浴拒否、腰痛の様子などを共有しており、必要に応じた支援をしている。職員は、認知症の接し方など介護者教室を受講してレベルの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から各職員と接する機会を設けるようにし、状況を把握し、意見要望を受け入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修がある場合、積極的に参加していくように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	成田市内のグループホームの管理者が定期的に集まり、連絡会を通して、外部との交流等を含んだ取り組みを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、安心して頂けるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのご相談、ご要望を取り入れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接時に、利用者及びご家族の状況を把握し、話し合いの場を持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と良く会話をし、安心して何でも話せる雰囲気を作れるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と普段から連絡を取り合い、相談できるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に得た本人の情報を基に、馴染みの事柄を会話の中に取り入れ、対応している。	施設には、利用者の友達、職場の仲間、住まいの近所の人たちが訪れて歓談している。施設では知り合いの人達について、家族に確認をしてから交流できるように対処している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや談話を通じ、互いに良い関係を		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続が必要な場合は、出来る範囲で協力していく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望をよく聞き、本人本意になるように検討している。	利用者の状況は、「ケアチェック表」7枚に食事、排泄など記入しており、更に7枚に内容を分析して問題を整理している。また、認知症については精神的な状況など、利用者の変化している内容掌握を適正に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかりと取って、介護に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の業務連絡にて、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の介護計画の見直しにて状況の把握をし、改善点があればその後のプランにつなげていく。	申し送りと毎月のカンファレンスで、利用者が何を着るのか分からなくなるため、夜勤者が着替える物を揃えるなど対応を話し合っている。また、注意する点をホワイトボードに記入して適切な支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護日誌を参考に介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に沿うように、状況に応じた対応が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力の基、消防訓練等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には状況を把握して頂くように情報を提供している。	本人・家族の希望で、半数の方は従来のかかりつけ医に家族対応で受診している。家族対応が不可能な場合は職員が付き添い受診し、その結果に関する情報は看護日誌に記述し家族と事業所で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体であるクリニックにて相談・対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に職員が医師及びご家族と相談をし、退院へ向けた計画をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医師、職員で話し合いをし、ご家族の意向を尊重し、対応するようにしている。	施設での生活を可能な限り継続することを基本としている。重度化した場合は早い段階から医師・家族と話し合いをして、事業所で出来ることを十分説明し、意向に沿った病院、医療施設を紹介して支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体であるクリニックに即連絡をし、常時医師の指示を受けることができる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー・火災受信機・火災通報装置を設置している。また消防署の協力のもと火災避難訓練を予定している。	スプリンクラー・火災通報装置を設置するとともに、災害時の避難誘導策・避難経路・避難場所等をマニュアルにして玄関・台所に貼り職員周知を図っている。しかし今のところ消防署指導のもとでの避難訓練は実施されていない。	消防署の協力のもと総合防災訓練の実施が望まれる。2階から階段を使用しての避難、夜間想定避難訓練等を職員と地域が協力して実施する取組を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、本人を尊重して対応できるように努めている。	プライバシーへの配慮や生活歴・経歴等を把握し、尊厳を傷つけないよう言葉遣いに注意を払っている。命令口調や行き過ぎた言葉にならないよう一人ひとりの性格を配慮し、カンファレンス時に職員間でお互いに確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に意思決定させ、より良く生活できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体の業務化ではなく、利用者本位の生活リズムになるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人の希望通りにしていただいている。当ホームで希望する方は出張美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を維持して頂くように、出来ることはしていただく。	一人ひとりの嚥下状態、摂取量に合わせた専門業者の弁当を利用している。味噌汁の具材、おやつを近くのスーパーに利用者・職員一緒に買い出しに行っている。誕生会のケーキ作りやホットプレートでパンケーキを焼いて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算され、栄養バランスの良い献立になっている。水分補給も個々に合わせ定期的に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内をチェックし歯磨き、義歯洗浄剤等にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況を把握し、必要があれば定期的にトイレ誘導をし、失敗がないように努めている。	排泄チェック表、水分摂取記録で排泄パターンを確認し、仕草・タイミングを見計らってトイレ誘導している。羞恥心に配慮した言葉かけを心がけ、日中オムツ使用をリハパンに改善する支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維がバランスよく取れる食事になっている。また、適度な運動を行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は設けているが、本人の希望に応えるように対応している。	入浴日は週2～3回であるが希望に添える支援をしている。そして転倒防止のため職員一人が浴槽の中で介助している。入浴前に体調確認を行い、拒否に対しては無理強いせず時間をかけて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人の意向に沿えるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当法人のクリニックの指示を仰ぎ、職員全員で確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の手入れや水やりの管理をしていただいたり、趣味を生かして、みんなの前で演奏を披露して、楽しみを作っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のデパートやスーパーに買い物に出かけたり、公園や商店街に足を運んでは、食事やお茶を飲んだりしている。	天気の良い日は外気浴をかねて庭の野菜の手入れをしたり、桜の木の下でお花見をしてお弁当を食べたり楽しんでいる。また近くのまんじゅう屋に出かけたり、成田山公園や御霊祭の花火見物・紅葉祭でお茶を飲んだり等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の管理はホームにて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の同意の上、電話をかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光は特にない。共用の空間には、花や植物があり季節感を出している。落ち着いて過ごせるようにしている。	居室ごとに表札があり、トイレは大きな赤い表示がなされており、利用者が不安にならないよう配慮されている。クリスマス飾り付け・正月のお供え等折り紙を利用者・職員で作成し、季節感を出し、居心地良く過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話が好きな利用者が多く、リビングのソファに座って楽しんでいる様子が見受けられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものを自由に持ち込んでいただき、安心できる環境を作っていた。	使い慣れたダンス・戸棚・愛読書・家族写真等を持ち込み、これまでの生活の継続が図られた心穏やかな生活空間が作られている。また各室にエアコンを配置し温度管理がなされており快適かつ安全に過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が出来るだけ安全で自由に行動できるように、サポートしている。		